

## 夢を膨らませながら

小磯 深幸 (旧姓 山岡)

昭和54年学部卒業



皆様、こんばんは。ただ今ご紹介いただきました小磯深幸です。今日は、最近感じております数学の守備範囲の広がりについて一言述べさせていただきますと存じます。

まず、私の経歴を簡単に述べさせていただきます。私は、京都大学卒業後、大阪大学大学院で理学博士号を取得し、大阪大学に助手として採用していただきました。同窓会長・井川満先生のお授業の演習も少なくとも3回は担当させていただきました。そののち、京都教育大学と奈良女子大学に教授として勤務し、約10年前に九州大学に転任致しました。京都大学4年時の講究では函数論がご専門の楠幸男先生にご指導いただきました。毎年の同窓会には、楠先生にお目にかかれるかも知れないと思い参

加申し込みをさせていただいております。私自身の現在の専門は幾何学で、主として曲面に対する変分問題の解の幾何学的性質や安定性について研究しています。

私が数学者になりたいと思ったのは、大学2年生、3年生の時の授業や演習を通して数学の美しさと自分で何かを見つけることの感動を味わったのがきっかけです。現在は、研究・教育・その他の仕事で多忙を極めておりますが、時々初心に帰って京都大学での学生時代を思い出しますと、新たなエネルギーが湧いてまいります。

さて、現在、私はマス・フォア・インダストリ研究所という部局に所属しています。私自身の専門は純粋数学ですが、企業の研究者の方とお話する機会がしばしばあり、最先端の数学を生かせる場がたくさんあるように感じています。ちょうど今週の水曜日(10月24日)の日本経済新聞朝刊に私どもの研究所についての記事が掲載されました。その中で、私と企業との共同研究や、私の学生と病院との共同研究が紹介されましたので、その部分を読ませていただきます。「物体が安定した形を取る現象を数学的に解明する『変分原理』を研究する小磯深幸教授はデンソーと、壊れにくい機械の構造を探る研究に取り組む。」「ドイツの病院で今年、血流に関する研究を行った博士課

程2年の軸丸芳揮さんは大学教授を目指していたが、『共同研究を通じ、企業での研究にも興味が湧いた』と話す。」

今日は、NECの佐古和恵さんが暗号についてご講演くださり、大変興味深く拝聴致しました。数学の活躍の場は、数学の内部にも外部にもたくさんあり、特に最近、数学の博士課程を修了した人たちの活躍の場が広がってきていると企業の研究所の方々から伺っています。実は、現在博士課程3年生の私の学生が、NECの研究所に採用していただけるとの内定をいただいております。私は、自身が良い研究をして数学界に貢献したいと思っておりますのは当然ですが、優秀な人材を育て、数学が社会の様々な場所で役に立つ、そのようなことにも貢献していきたいと夢を膨らませております。同窓生の皆様とも、情報交換などを行わせていただければ幸いです。

以上、夢を語らせていただきましたところで私のスピーチを終わらせていただきます。ご静聴いただき有難うございました。